

医療法人社団 銀緑会
みどり野リハビリテーション病院 広報誌

Midorino
Rehabilitation
Hospital



いろどりみどり

vol.
41

ご自由にお持ち下さい。



大賀蓮 薬師池公園 鑑蓮会にて

CONTENTS

2P… アンコール小児病院研修

4P… 学会報告

5P… 当院の食事について

6P… オムツマイスターによる家族教室開催

7P… マルちゃんの独り言[㊤]

8P… 医療相談窓口のご案内



医療法人社団 銀緑会

みどり野リハビリテーション病院

〒242-0007 神奈川県大和市中央林間2丁目6-17

<https://midorino-hp.jp>

アンコール 小児病院研修



カマチ・グループの院内旅行でカンボジア・シェムリアップ市にある、小児病院(写真1)の見学と研修に参加してきました。参加者は各地にあるカマチ・グループの施設から医師・看護師・リハビリスタッフの計27名です。

期間は、2025年2月20日～2025年2月24日までの4泊5日のツアーでした。

当日の朝、成田を出発し、シェムリアップ空港に17時頃に到着しました。

アンコールワットなどの遺跡を見学しその後アンコール小児病院の見学と研修になりました。

この病院は、1999年2月22日にカンボジアのシェムリアップで開院しました。

その設立の背景には、日本人写真家の井津建郎氏(写真2)の強い決意がありました。

彼は1993年にカンボジアを訪れた際、たった2ドルの治療費が払えずに命を落とした少女とその家族に出会い、医療が行き届いていない現状を目の当たりにしました。

この経験がきっかけとなり、彼は非営利の小児病院を設立することを決意しました。

その後、井津氏は自身の写真作品の収益を基にアメリカや日本の友人たちの支援を受け1995年にボランティア団体「フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー」をニューヨークで設立しました。そして3,000人以上の支援者の協力を得て、1999年にアンコール小児病院が開院しました。

この病院は、カンボジアの子どもたちに質の高い医療を提供することを目的とし、現在では国内全域の医療スタッフの育成も行っておりカンボジア保健省から教育病院として認定されています。

2013年には病院の運営権がカンボジア人スタッフに移譲され、カンボジア人のカンボジア人によるカンボジア人のための病院として現地スタッフが主体となり運営されています。

この病院へは、カマチ・グループも援助を行っています。



(写真1) アンコール小児病院



(写真2) 創立者 井津 建郎氏

新生児から15歳までの子供を対象に診療を行っており1日あたり約350人以上の患者が訪れており、開院以来220万人以上の子供たちの治療を行っています。

訪問すると、病院長の Ngoun Chantheaktra先生(写真3)が自ら案内をしてくださいました。病院の概要のお話の後、院内見学ツアーに同行しました。アンコール小児病院の現在は入院病棟、救急室、集中治療室、手術室、歯科、眼科などを備え、カンボジアの特に貧困層に、必要な医療環境を提供しています。また、医療を提供するだけでなく、医療を提供する側の育成にも力を入れています。入院患者さんの親に、栄養指導を行ったり、併設されている親専用の宿泊施設では自炊ができるようになっていました(写真4)。

たまたま訪問した日が休日ということもあり、外来患者さんはいませんが、入院患者さんをガラス戸越しに見ることができました。子供さんが皆、元気そうな顔をしていたのが印象的でした。ここに入院できた子供達は幸運です。カンボジアではまだ、このような治療が受けられない子供たちが、大勢いるのでしょうか。設立者の井津氏は、現在ラオスにも同様の病院を設立されています。

院内見学は、午前中に終わりました。夕刻からは、アンコール小児病院の記念式典にも参加させていただきました。この記念式典は毎年行なわれていて、職員全員の自薦他薦を問わず、投票し、部門別に得票数の多いスタッフに表彰と副賞として金一封を授与しています。働いているスタッフのモチベーションを上げる役も果たしているそうです。

表彰式の後、食事がふるまわれ、その後は、プロの歌手と、大音量で音楽が流れる中、院長先生を始め、どこかのダンスホールのように入れ代わり立ち代わり皆さんが、ずっと踊っていました(写真5)。我々も、その輪の中にいましたが、20時半くらいに失礼しました。翌日、病院スタッフに昨日の話を聞くと院長先生は、例年のごとく22時頃まで踊っていたそうです。そのスタミナには大変、驚かされます。

我々の働いているカマチ・グループも、このような素晴らしい病院に援助をしていることに、誇りが持てますし、今後、皆さんも機会があれば是非、アンコール小児病院の研修に参加して欲しいと思いました。

私もそうでしたが、医療の国際協力に対する考え方が変わると思います。

医局 M.R



(写真3) アンコール小児病院 病院長
Ngoun Chantheaktra 先生



(写真4) 病院内の自炊施設



(写真5) 盆踊り

学会報告

第26回 日本訪問リハビリテーション協会 学術大会 in 群馬 2025

開催日:2025年6月7日・8日



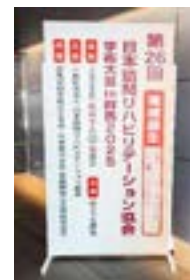
演題

動眼神経麻痺による眼球機能障害が改善し QOLが向上した症例

日々の訪問リハビリの実践の中で関わった一症例について報告しました。動眼神経麻痺により眼球運動に障害をきたしていた利用者に対し、個別性を重視した継続的なリハビリテーション介入を行うことで、眼球機能の改善を促し、それが生活の質（QOL）の向上にもつながった症例です。視覚障害は移動や日常生活に広く影響を及ぼし、生活維持期においても、機能訓練の重要性や地道な機能訓練の実施による改善の可能性について、あらためて実感しました。

このような評価は、日頃のチームでの支援の積み重ねと、利用者・ご家族との信頼関係があってこそその成果であると感じています。

リハビリテーション科 T.M



本大会は、「地域創生～訪問リハビリテーションの立場から誰もが暮らしやすい街を～」をメインテーマとして開催されました。

医療介護給付費の増大や介護人材の不足など、社会保障制度の持続性が懸念される中で、訪問リハビリが地域において果たす役割は大きくなってきています。

シンポジウムや講演では、地域共生社会の実現に向けて、我々リハビリ専門職が地域づくりに関与できる視点が数多く示され、非常に刺激を受けました。

今回の学会参加を通じて、訪問リハビリの価値を再認識するとともに、リハビリ専門職として「個人」だけでなく「地域全体」を支える視点の重要性を深く実感しました。今後も臨床での経験を学術的に整理し、積極的に情報発信を行うことで、支援の質の向上と、訪問リハビリの社会的価値の向上に貢献してまいりたいと思います。

リハビリテーション科

当院の食事について

当院では、急性期からの栄養管理を転院直後から継続できるよう管理栄養士が入院時に患者様・ご家族様に食物アレルギーの有無、前院での状況や病前の食生活などの聞き取りをおこなっています。また、病態や嚥下機能に合わせ医師の指示のもと多職種と協働し、患者様一人ひとりに適した食事提供ができるよう調整を行っています。

行事食・お楽しみランチ・セレクト食

入院生活においても楽しみを感じていただけるよう季節に合わせた『行事食(1-2回/月)』、外食気分をコンセプトに好きな飲み物を選択し一緒に食事を楽しむ『お楽しみランチ(1回/月)』、2種類からお好きな方を選択する『セレクト食(4回程度/年)』を行なっています。

また、衛生面に配慮し、安心・安全なより良い食事提供ができるよう調理担当者と協力し、日々試行錯誤を繰り返しています。

行事食



敬老の日

お正月



お楽しみランチ



お刺身
ランチ

うなぎ
ちらし



セレクト食



メニュー

お好み焼き
唐揚げ
サラダ
かき氷風ゼリー

8月は、夏祭り定番の屋台飯をご提供いたしました。かき氷をイメージしたかき氷風ゼリーはイチゴとブルーハワイのどちらかを選んでいただきました。

かき氷風ゼリー（A:イチゴ味 B:ブルーハワイ味）



※写真は一般食のお食事です。治療食や嚥下調整食は適した食事内容に調整しています。

栄養科

オムツマイスターによる家族教室開催

～ 漏れにくいオムツ交換 ～

<オムツマイスターとは>

紙オムツの選び方・当て方・肌のトラブルなど、幅広い知識と技術を学び、試験に合格すると認定される資格です。



オムツ交換一つと言ってもただ付けられればいいと思いますが、実は少しの工夫で快適さが全然違います!!

<内 容> オムツについての講義・吸水実験、人形を用いて実際のオムツの当て方・工夫などの実技を行いました。
教室中にも多くの質問が行きかうなど、積極的に参加されていました。

<参加者> 患者:3名 家族:13名 計:16名の参加がありました。



<オムツ教室に参加された方の感想>

- ◎分かりやすい講義・実演をしてもらえて不安が減りました。
- ◎実際にオムツの当て方の実技体験が出来て良かったです。
- ◎色水をパッドに流し、時間が経つと表面がサラサラで驚きました。

◎◎オムツに関して困った時は、いつでもスタッフにご相談ください◎◎

看護部

25

マルちゃんの独り言



斜対歩と側対歩について

あまり聞きなれない言葉です。当然ですが、この言葉は、馬術用語です。

斜対歩(しゃたいほ)とは、馬の対角線上の肢(右前肢と左後肢、または左前肢と右後肢)がペアになって動く歩き方で、多くの競馬馬や乗馬で多く見られます。上下の揺れが大きく、速く走るのに適していますが、照準をあわせる必要がある場合には不向きです。この歩き方は、犬、猫や馬によくみられます。

側対歩(そくたいほ)とは、同じ側の前肢と後肢(左前肢と左後肢、または右前肢と右後肢)がペアになって動く歩き方です。この歩き方は荷駄馬や一部の在来種の馬、キリン、ラクダ、ゾウに見られる「ナンバ歩き」とも呼ばれる歩法です。揺れが少なく荷崩れしにくく、乗り心地も良いそうです。そのため、荷物を運ぶ事や騎射に適しています。また乗馬にも適しています。しかし、旋回性能が低く、速度も遅めです。

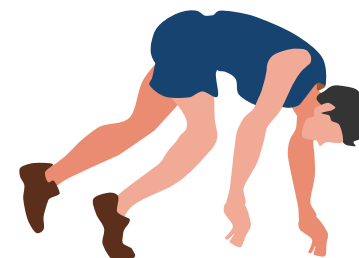
斜対歩は「対角線上の脚」がペアになるのに対し側対歩は「同じ側の脚」がペアになります。日本でも、昔の飛脚が行っていた走り方が、「ナンバ走り」と言われていますが、同側の手と足が前に出る方法です。空き缶で作る竹馬もそうですね。

ナンバ歩きについては、歩行における関節レベルのエネルギー効率の改善が実験的に示されており、シンガポール国立大学の研究(Yap&Yeow,2024)によると、長距離歩行・ランにおいては省エネになる可能性があります(特に股関節の発力抑制と足関節での吸収効率向上によって)。

同じ歩行速度・条件下で比較したところ、ナンバ歩きでは、股関節のコンセントリック(屈筋)仕事が減少。足関節のエネルギー吸収(エキセントリック仕事)は増加していたそうです。

ナンバ歩きの方が、エネルギー効率は、良いようです。

「米子の米江さん四足走行人類最速なるか! 9月24日にギネス世界記録挑戦へ(日本海新聞 2025年08月22日)」という記事がありました。人間も四つ足で、走ると斜対歩になるんですね。



医療相談窓口のご案内

患者様やご家族様より入退院に関わる
ご相談をお伺いし、解決に向けてお手伝い
いたします。

ご不明な点がございましたら、いつでも
お気軽にご相談ください。



相談窓口 / 1階受付
受付時間 / 9:00~17:00
(月曜日~土曜日)

みどり野リハビリテーション病院 医療連携室
(代表) TEL 046-271-1221 FAX 046-271-1220



ホームページのご案内

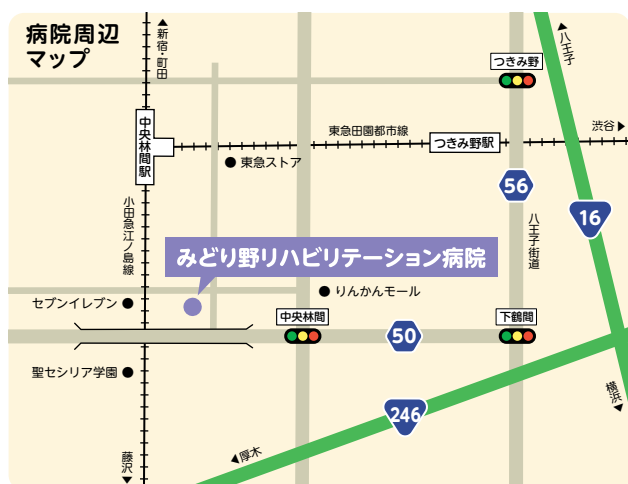
当院の詳しい内容は、
ホームページで
ご覧いただけます。
検索キーワードは
「みどり野リハビリ」
是非ご参照くださいませ。



みどり野リハビリ

Q 検索

<https://midorino-hp.jp>



みどり野リハビリテーション病院 広報誌

いろどりみどり vol. 41

企画発行

みどり野リハビリテーション病院
広報委員会

〒242-0007 神奈川県大和市中央林間2丁目6-17
TEL 046-271-1221(代表) / FAX 046-271-1220